

# 令和3年度 当初予算事業の概要説明書

(兼評価説明書)

1 頁

## 1. 事務事業の概要

完了  評価対象  行計対象

事務事業名 (中事業)	29568 子どもの読書活動推進事業			
基本政策	05 生涯活躍・共生社会の実現			
政策	03 生涯学習を充実する			
施策	04 図書館サービスを充実します			
実施形態	直営			
事業期間	単年度			
要求区分	継続	予算区分	政策	
事業の実施を市に義務づける国の法令				
有 無	努力規定あり			
法令名	子どもの読書活動の推進に関する法律			
条 項				
予算科目	01-100511-030400			
部 名	50 教育委員会	課 名	09 図書館	
課長名	森脇 達也	T E L	23-5991	内線

## 2. 対象・目的・内容

事業概要	<p>①学校園での読書活動の推進及び図書貸出における先生方の負担軽減を図るため、学校園図書団体貸出運搬業務委託事業を継続。</p> <p>②子どもの読書活動推進を目的として、幼少期における読書習慣を定着させ、子どもの学力向上を図る。出生届出時と10ヶ月児乳児相談時に絵本を配布するブックスタート事業を継続。</p> <p>③おはなし会（絵本の読み聞かせ）の実施</p>
事業の対象 (誰・何を)	<p>①学校園の児童</p> <p>②出生届出時と10ヶ月児及びその保護者</p> <p>③主に乳幼児及び保護者</p>
事業の目的 (どういう状態にするために)	子どもの読書習慣の定着
事業の内容 (どういう内容を行うのか)	<p>①学校園への図書貸出時の図書の配達及び回収を業者に委託。</p> <p>②出生届出時と10ヶ月児乳児相談時に絵本を配布するブックスタート事業</p> <p>③読み聞かせボランティア及び図書館司書による絵本の読み聞かせなどを定例的に実施</p>

## 3. 年度別事業費

(単位：千円)

	事業費	事業費の内訳						
		国庫支出金	県支出金	地方債	分担金負担金	使用料手数料	その他	一般財源
平成30年度決算額	1,283	0	0	0	0	0	1,283	0
平成31年度決算額	2,627	0	0	0	0	0	2,627	0
令和02年度決算額	1,081	0	427	0	0	0	654	0
令和03年度予算額	818	0	0	0	0	0	818	0

## 4. 総コストの概算

(単位：千円)

令和2年度のこの事業に従事している職員数		従事職員数	人件費(A)	令和2年度決算額(B)	総コスト (A) + (B)
一般職員	嘱託・臨時職員				
0.05	0.10	0.15	626	1,081	1,707
事業費の主な用途		図書運搬業務委託			

# 令和3年度 当初予算事業の概要説明書

(兼評価説明書)

## 5. 事業の実績・目標

活動 指標 ①	指標名	学校園への運搬回数				単位	回
	説明や数式						
	年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度		
	目標値		600	600	700		
	実績値	398	601				
	経費(千円) 単位当たりのコスト	349 0.88	529 0.88				
活動 指標 ②	指標名	出生届出時及び10ヶ月児への絵本購入数				単位	冊
	説明や数式						
	年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度		
	目標値						
	実績値	1,042	342				
	経費(千円) 単位当たりのコスト	892 0.86	301 0.88				
成果 指標 ①	指標名	学校園への貸出冊数				単位	
	説明や数式						
	年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度		
	目標値						
	実績値	9,810	16,823				
	経費(千円) 単位当たりのコスト		0				
成果 指標 ②	指標名	出生届出時及び10ヶ月児への絵本配布数				単位	
	説明や数式						
	年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度		
	目標値						
	実績値	458	392				
	経費(千円) 単位当たりのコスト		0				
実績・成果 等の説明	<p>①学校園への貸出図書冊数が、平成31年度9,810冊を大きく上回る16,823冊となっており、学校園での読書への関心の高まりがうかがえ、さらに、子どもの読書活動を推進する上でも、継続する必要がある。</p> <p>②平成29年1月からスタートし、出生届出時と10か月児乳児相談時に絵本を手渡している。絵本の配布時には、図書館で行っているおはなし会等の案内や読書通帳の紹介も行っており、これを契機に読書に興味を持つ子が増えることを期待する。なお、図書の在庫分については、翌年度へ繰り越している。</p>						

## 6. 評価

1 次 評 価	評価ポイント	事業の優先度(緊急性)	4	事業の必要性	2	実施主体の妥当性	4
		直接のサービスの相手方	2	受益者負担の適切さ	5	市民ニーズの把握	3
	事業の総合評価	継続実施					
2 次 評 価	説明	学校園への図書団体貸出冊数が、平成31年度に引き続き大幅な増加傾向にあり、学校園からのニーズが高まっている。図書館から遠方の子どもたちにも図書館図書の利用機会、読書の機会が得られる事業として、今後も必要である。					
	説明	学校園への図書貸出運搬事業については貸出冊数が対前年度1.7倍に増えるなど、利用が伸びている。一方、学校園やクラスによって貸出冊数に偏りが見られるため、事業の周知方法などを工夫し、利用促進につなげるよう検討されたい。また、定期便で運搬するなど業務効率の向上が望めないか今後検討されたい。ブックスタート事業は、子育ての忙しい合間にも親と子が本に触れることができる貴重な機会となっている。子どもの読書習慣の定着には親の影響も大きいと考えられるため情報発信や啓発方法を工夫しながら継続実施されることが望ましい。					